

## 「SoTLプロジェクト 2025」応募のご案内

冒頭、SoTLプロジェクト修了者の意見や感想を掲載しております。

参考にして応募してください（その後ろに募集要領があります）。

2025年度は研究助成金は付きませんが研究方法や教育を研究対象とするノウハウなどについて従来通り支援をいたします。

## SoTL 修了者の声

### SoTL プロジェクトに参加する意義

今まで約 70 プロジェクトが SoTL プロジェクトに参加していますが全員が非常に意義があった、あるいは意義があったと回答しています。その主な理由は次のようなものでした。

- ・授業を長く担当していると、単調になってきますが、SoTLにより、授業改善が進みます。
- ・研究として取り組むので、エビデンスに基づいて、現状の教育活動のメリット・デメリットを抽出でき、自身の教育活動改善だけでなく、学部全体での教育活動改善を訴えられます。また、教育改善+自身の研究業績を増やせることから大いに研究として取り組む意義があると思います。
- ・授業改善や開発に研究として取り組むことが、帝京大学・教員個人としても大きな実績になります。
- ・授業力の向上は、教師である限り絶対に必要なことです。特に、計画を立て、手続きを経て、実践的に研究することが大切です。そのような意味で SoTL は、大変重要で貴重な機会だと思います。

### SoTL プロジェクトに参加してよかったこと

- ・学部内外の先生方とコラボレーションできるきっかけとなったことです。
- ・自学部だけでなく、普段は知ることのできない他学部の実践や研究を知ることができました。
- ・このプロジェクトの交流を通して、その後の授業についての多くのヒントが得られたことです。
- ・SoTL で着手したことを基に、学科全体の教育改善プランを立案し、教育改善等改革プログラムへ応募した。

### 気持ち、意欲、意識の変化

- ・データと学生の声に基づいて授業改善する楽しさを知ることができたことです。
- ・目標を設定することで「どの視点からどのように改善するか」の視座ができ、その成果にまで意識が向くようになり、特に PDCA の PDC の意識が高まりました。
- ・第三者に講義内容を伝達することを自分自身が意識するようになりました。そのため、講義改善の結果を評価するための目標を講義中に意識することができました。
- ・チャレンジした実践教育は客観評価することで教育研究として価値が高まることを経験でき、教育研究として形を残すためには何を押さえなくてはならないのか考えるようになりました。

### 実際に変わったこと、できたこと

- ・授業を面白いものだという気持ちを学生と共有でき、学生のやる気を引き出すことができました。
- ・SoTLに参加することにより、普段の取り組みを研究としてまとめることができました。
- ・長年の課題であった受講生の数の少なさと脱落者の多さが劇的に改善されました。
- ・研究を軸に考えて、目的やねらいを意識して授業を展開できるようになりました。

### 他の教員に本プロジェクトを勧めたい理由

- ・自身の授業の在り方に向き合うことができる。期限が決められているので、そのペースで評価できるようにプランニング能力が身につく。
- ・授業を研究対象にする方法（手軽な方法を含めて）を学ぶことができること、その失敗や成果を学

部を超えて共有できること。

- ・教育研究の非専門家の教員が教育を題材にした研究報告に参加できることが、SoTL を他の教員に勧める理由です。多くの教員は CTL の研修に参加した経験があるので、参加しやすいと思います。
- ・このプロジェクトは、最終報告までシステム化されているため、必ず成果となり、経験と業績が up することは素晴らしいので勧めたいと思います。

## インタビューによる応募前と採択・修了後

### A 先生

**応募前：**論文が書けない、書かなければならない、東日本大震災で自分の価値観が揺らいだ自信（無力感）、教材費が得られる。

**採択・修了後：**発表がなければ、うまくいった・いかなかった程度で終わるが、研究目線で自分の授業を見ると、何が変わったのか、変わったことをどう説明するかなどを考えるようになる。学生は確実に変わっているがこれをどう表現するのかに苦労している。

### B 先生

**応募前：**大学の中で研究をしたい、自分の授業のクオリティーを確かめたい、単位の修得率の向上を図りたいという自己要求に対して、学科は、良い先生ばかりですが、一緒に仕事をやりましょうという方がいなかった。PBL に興味がなさそう。私は必要とされていないのか。一日仕事をしても誰とも話をしていない状態が続いた。SoTL プロジェクトは授業を良くしようという先生方の集まりということで期待した。さらに、周りは SoTL に興味がなさそう、競争率も低そうと思った。

**採択・修了後：**SoTL で成果を出すことによって学科内で認められるようになった。自分が漠然とここだけは大事にしたいと思っていることが評価されることによって間違っていない、大事にしていんだと思った。単位の修得率が上がった。

### C 先生

**応募前：**授業が成り立たない、縦割りで他の先生に聞きにくい、自分で解決するしかない、経験や感触として学生に向き合うのではなく、研究として向き合っ、学生や学科にデータとして示せば、何かの布石にすることができるのか。悩んでいたらまたま帝京大学には高等教育開発センターがあることを知り 1 番ここが自分の悩みを解決できるところなのかなと思った。

**採択・修了後：**教師を育てているので、このぐらいは、身につけて欲しいという気持ちが強く、先生は、自分の思い通りにならないと、全部それを学生に押し付けるというのを何度か学生に言われた。学生とのずれが大きかったことに気が付いたのが私自身の大きな変化へと連なった。この大学の学生の特性や気持ちに気づくことができたことで、私が変わると学生も変わったので、自分が押し付けていたことを再認識した。異分野の教員とのコラボで相乗効果を期待して、SoTL に応募の準備中。

## インタビューを通して記憶に残っていること

- ・外部への資金援助への応募では採用・不採用通知のみであったり、評価結果が添えられてはいるのですが、どのように改善すればよいか分かりません。この SoTL プロジェクトは何を明確にしなければならぬのか、そのために何をすればよいか、などの指導があるので、大変助かります。
- ・中間発表で SoTL に要求されるレベルがわかり、大変参考になった。うまくいった・いかなかったレベルから脱する機会になった。自分一人でそのまま続けているとどうなったか恐怖を感じました。

## 「SoTL プロジェクト 2025」募集要領

### 1. 趣旨

高等教育開発センターでは、帝京大学の全キャンパスにおける授業改善と教育の質向上を促進するため「SoTL プロジェクト 2025」を開催します。

SoTL (Scholarship of Teaching and Learning) とは、「自己の教育実践や学生の学習に対する学術的アプローチにもとづいた探求を通して、高等教育における教授と学習のプロセスをより高度化し、その成果を広く共有する取組み」のことです。本プロジェクトは、本学の教育指針である「実学・国際性・開放性」の実現を目指し、学生の視点に立った教育活動の展開に貢献しようとする教員個人(少数人数グループを含む)の教授・学習に関わる研究活動を支援するものです。

### 2. 募集について

#### (1) 募集対象と助成金額

2025 年度に実施される全ての授業科目を対象とします。本年度資源が得られなかったために助成金はありません。

#### (2) 課題

課題は自由ですが、以下に示すような取組みを推奨します。

1. ICT・AI を活用した授業の設計・実施と評価
2. アクティブラーニング型授業の設計・実施と評価
3. データを活用した教授・学修活動の改善と評価
4. 学部生や大学院生と共同した教授・学修活動の改善の取組みと評価
5. その他

#### (3) 採択期間

採択期間は、原則として採択通知日から 2026 年 3 月 31 日までとします。

#### (4) 研究倫理規定の遵守

取組みにあたっては、『帝京大学・帝京大学短期大学における研究者行動規範 (2015 年 4 月 1 日 制定)』、『帝京大学・帝京大学短期大学における研究データ等の保存に関するガイドライン (2019 年 4 月 施行)』および『帝京大学・帝京大学短期大学における研究活動に係る不正行為防止に関する規定』を必ず参照してください。

\* 『帝京大学・帝京大学短期大学における研究者行動規範』は、本学ホームページの「競争的資金等の不正防止に関する基本方針」(<https://www.teikyo-u.ac.jp/teacher/prevention.html>)よりダウンロードできます。

\* 『帝京大学・帝京大学短期大学における研究データ等の保存に関するガイドライン』および『帝京大学・帝京大学短期大学における研究活動に係る不正行為防止に関する規定』は、本学ホームページの「研究における不正行為への対応」([https://www.teikyo-u.ac.jp/teacher/fraud\\_countermeasure](https://www.teikyo-u.ac.jp/teacher/fraud_countermeasure))よりダウンロードできます。

\* 本学が進める研究倫理に関する研修プロジェクト(研究関連リスクマネジメント総合研修、研

究データ保存に関する講習等)を、代表者ならびに分担者全員が受講されていることが採択の必須要件です。

#### (5) SoTL フェロー制度について

SoTL の実践コミュニティをさらに発展させ、主体的・継続的な教学改善のサイクルを構築するため、2021 年度より本プロジェクトにフェロー制度を導入しました。

フェローは、その年の SoTL プロジェクト採択者（代表者および共同研究者）が自動的に登録されるもので、自身が辞退を申し出ない限りはフェローとしての立場が採択期間終了後も自動的に更新されます。フェローは毎年開催される SoTL 勉強会や成果報告会などへの参加と、自由研究発表（その年の採択者以外）も行うことが可能です。

フェロー制度に関する詳細は、採択者に後日お知らせいたします。

### 3. 採択の基準

申請課題は、少なくとも以下の基準(1)(2)を満たすものの中から、研究目的や研究手法の明確さ、成果検証のためのエビデンスの明確さ、成果の普遍性等を考慮して採択されます。

- (1) 本学の授業方法・運営、学生の学習活動などの改善に資すること
- (2) 改善効果を検証することができるものであること
- (3) 実践手法が同じ専門分野・領域のみならず、他分野での教育活動においても適用可能であること

### 4. 審査方法と採択の決定

提出された申請課題は高等教育開発センターにて審査を行い、採択決定者にのみ通知します。また、採択決定者については高等教育開発センターのホームページにて、「テーマ・代表者の氏名・所属・助成金額」を公開します。採択・不採択の理由については公表しません。

なお、採択された取組みの代表者には、取組みの成果について『CTL フォーラム（高等教育開発センター紀要）』に報告論文（授業実践研究）を投稿していただきます。また、八王子キャンパスにおいて開催する「SoTL プロジェクト 2025 中間報告会」（学内限定）および「SoTL プロジェクト 2025 成果報告会」（学内外に公開）において報告発表を行っていただきます。

### 5. 応募方法

#### (1) 応募方法

別途開催する「SoTL プロジェクト 2025」募集説明会にご参加ください。説明会への参加は任意となります。なお、SoTL プロジェクトウェブサイトにて説明会動画を掲載予定です。

申請書は、SoTL プロジェクトウェブサイトよりダウンロードいただき、所定の内容を記載・押印の上、「申請書の送付先」のメールアドレスへ添付ファイルにてお送りください（メール件名：「SoTL2025 申請」）。

応募に際し何かご不明な点がございましたら、高等教育開発センターへメールにてご連絡ください。

\* SoTL プロジェクトウェブサイト：<https://ctl.teikyo.jp/fd/sotl/>

\* 申請書の送付先： 高等教育開発センター [ctl@main.teikyo-u.ac.jp](mailto:ctl@main.teikyo-u.ac.jp)  
メール件名を「SoTL2025 申請」としてください。

(2) 応募期間

2025年3月21日（金）～2025年4月21日（月） 【厳守】

6. 今後の予定

2025年3月26日（水）13:00～14:00 募集説明会（オンライン）※申し込み不要  
接続先 URL がわからない方は、高等教育開発センターまでご連絡ください。  
後日、説明会の動画を SoTL プロジェクトウェブサイトへアップいたします。

2025年4月21日（月）申込み締切日

5月上旬 採択者に結果通知

5月 採択期間の開始

8月・10月 内部勉強会の開催（研究のブラッシュアップを目的に、CTL より研究に  
有用な情報提供と参加者による意見交換を行います。）

11月 中間報告会

2026年2月 SoTL プロジェクト 2025 成果報告会

3月31日 採択期間の終了

8月末 『CTL フォーラム』への寄稿（8,000 字程度）

2027年2月末 『CTL フォーラム』出版

\* 内部勉強会は任意参加、中間報告会および成果報告会は必須参加となります。

なお、各採択プロジェクト内容については、「教育改善等改革プログラム開発支援制度」採択プログラムでの成果報告やその他支援制度の応募などにおいて適宜使用させていただく場合がありますこと、あらかじめご了承ください。

以上

<お問い合わせ先>

高等教育開発センター [ctl@main.teikyo-u.ac.jp](mailto:ctl@main.teikyo-u.ac.jp)

## 「SoTLプロジェクト2025」申請書

年 月 日

高等教育開発センター長 殿

所属・職名 \_\_\_\_\_

申請代表者氏名： \_\_\_\_\_ (印)

申請分担者	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
	所属・職名 _____	氏名 _____
研究課題名	【該当する研究課題】 ( 1・2・3・4・5) *募集要領2-(2)を参照 【課題名】	
備 考		

<確認項目>

以下ご確認のうえ、チェックをお入れください。

※チェックがない場合、申請書はお受けできませんのでご了承ください。

✓	応募にあたり、「SoTLプロジェクト2025」募集要領を読み、記載内容を了解しています。
✓	応募にあたり、代表者ならびに分担者は本学が進める研究倫理に関する研修プロジェクト(研究関連リスクマネジメント総合研修、研究データ保存に関する講習等)の受講を終えています。

※枠は自由に広げて記入してください。

①研究目的と期待される成果（できるだけ具体的にお書きください）

\* 課題番号5「その他」を選択された場合は、「取組みの特長」についてもお書きください。

【目的】

【期待される成果】

②研究方法（できるだけ具体的にお書きください）

③成果検証のためのエビデンス（できるだけ具体的にお書きください）

\* 量的データ（テストの点数など）／質的データ（感想・コメントなど）

【エビデンスとなるデータの種類と収集・分析】

④実施スケジュール（②の研究方法との整合性に留意し、具体的にお書きください）

月	



--	--

⑤役割分担（※申請分担者がいる場合のみ。単独申請の方は記載不要です。）

【代表者】

【分担者】 \* 分担者が複数の場合は、各々についてお書きください。